

新潟市SDGs未来都市について

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは①

- ▶ **「SDGs未来都市」** は、SDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市として、国から選定されるもの。
- ▶ **「自治体SDGsモデル事業」** は、SDGs未来都市の中でも、特に先導的な取組として選定されるもの。
- ▶ 「自治体SDGsモデル事業」選定都市は、各都市25,000千円を上限とした、国からの資金的支援を受けることが可能。

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは②

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について

別紙1

- 概要**
- 中長期を見通した持続可能なまちづくりに向けて、地方創生に資する、地方公共団体によるSDGsの取組みをさらに推進していくためには、モデルとなる先進事例の創出と、普及展開が必要。
 - 我が国の「SDGsモデル」の構築に向け、地方公共団体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として選定。また、特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定し、補助金による支援を行う。⇒2021年度までの4カ年で「SDGs未来都市」124都市、「自治体SDGsモデル事業」40事業を選定。
 - 地方公共団体の取組を支援するとともに、成功事例の普及展開を行い、全国の地方創生の深化につなげる。

SDGs未来都市

選定趣旨

SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面の統合的取組による相乗効果、新しい価値の創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を選定

2021年度からは、脱炭素化に関する取組を選定時の加点要素として追加

地方創生推進交付金の、申請事業数上限の枠外として、1事業追加可能

自治体SDGsモデル事業（10件）

SDGs未来都市に選定された都市のうち、多様なステークホルダーとの連携を通し、地域における自律的好循環の形成が見込める、特に先導的な事業

2022年度

補助

補助金 総額 2.5億円 上限2,500万円/都市 × 10件

補助区分	対象経費	補助金額・補助率
全体マネジメント・普及啓発等経費	計画策定、事業実施体制の構築、普及啓発活動 など	1,500万円 【定額】
事業実施経費	外注費（工事請負、システム開発等）、委託料 など	1,000万円 【補助率1/2】

成功事例の普及展開

自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースによる省庁横断的な支援（計画策定・事業実施等）

自治体SDGs推進評価・調査検討会による継続的な助言、支援

持続可能なまちづくり

選定当日の様子

- ▶ 令和4年5月20日、東京永田町の会場にて、野田聖子地方創生担当大臣から選定証を受け取る授与式に市長が出席。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

自治体SDGsモデル事業

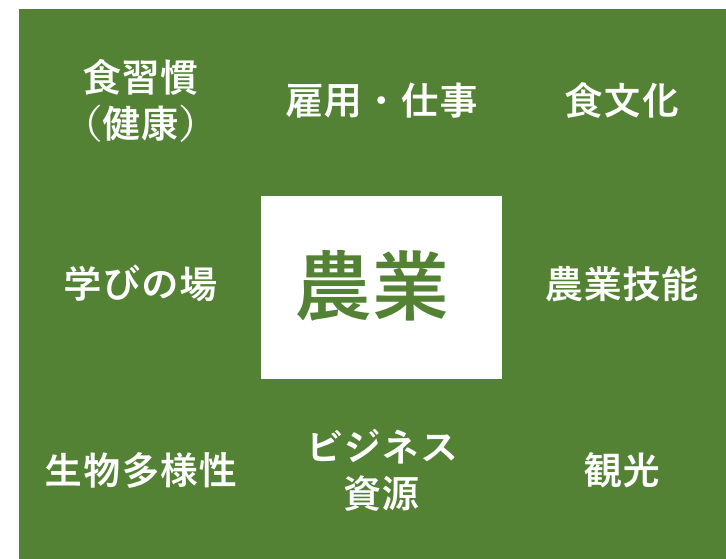
事業名

将来に向けた持続可能な食と農の創出プロジェクト

事業概要

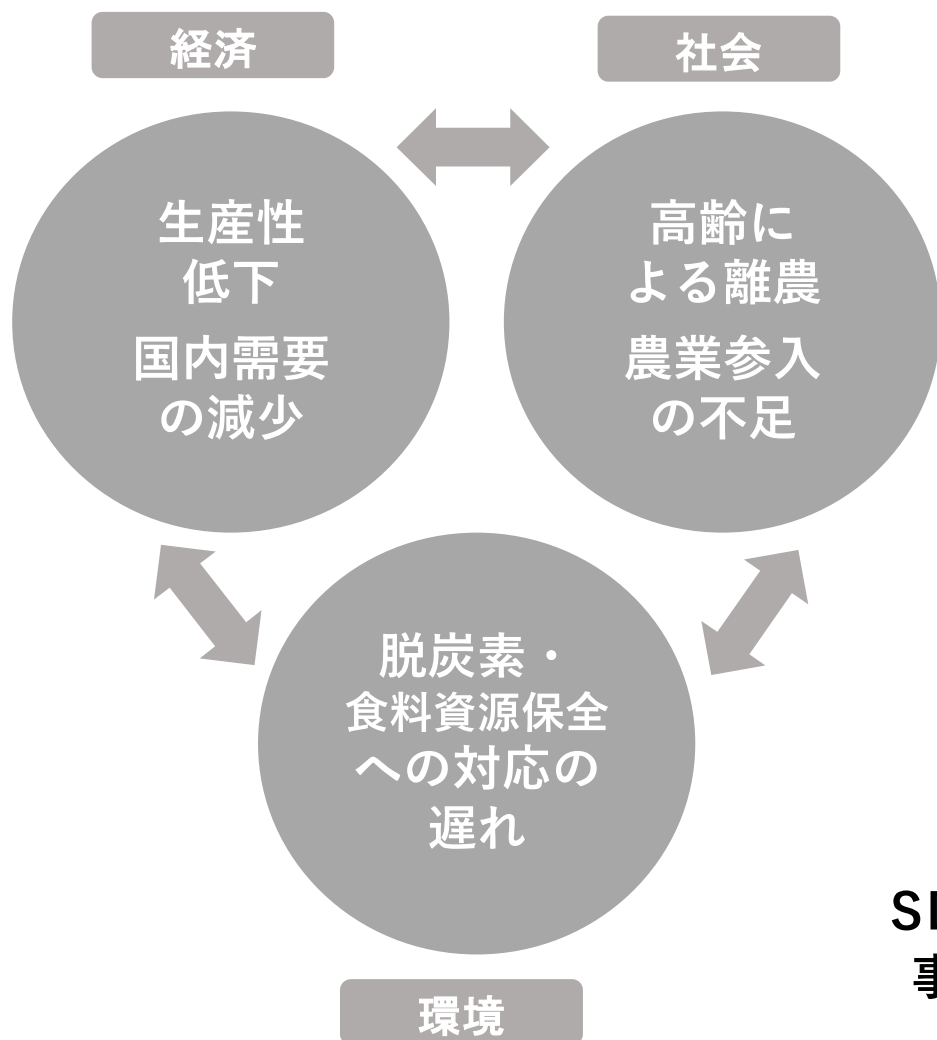
- ▶ デジタル技術の有効活用
- ▶ 強みである「食」と「農」の価値向上
- ▶ 経済面・社会面・環境面の課題解決
- ▶ 統合的取組により課題解決を加速
- ▶ 持続可能な「食」と「農」の創出

「食」と「農」の多様な価値

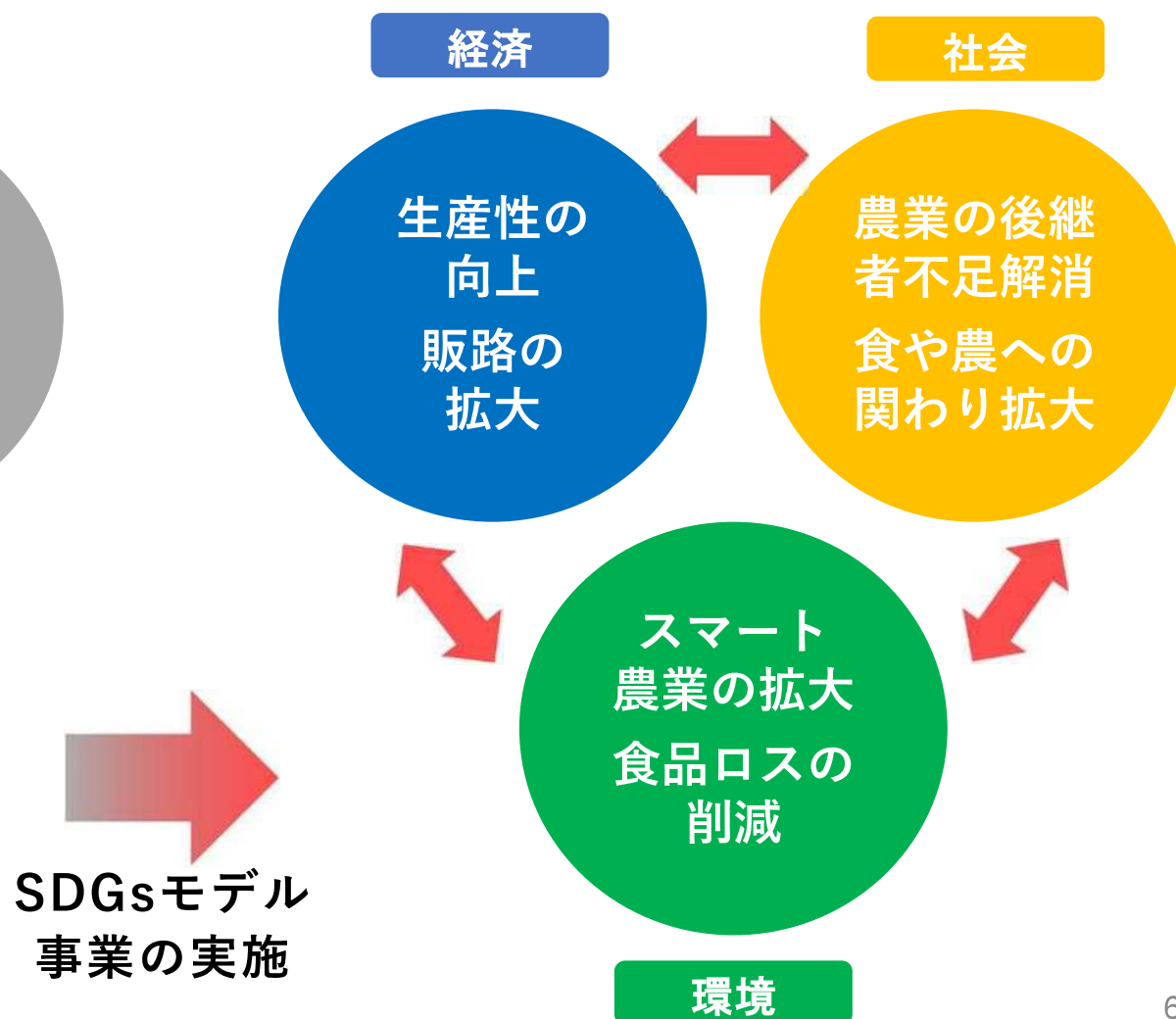


課題解決の方向性

食と農を取り巻く課題



好循環による解決



課題解決に向けた取組

経済

- ▶ **フードテック**による食関連産業の付加価値創出
- ▶ **食品流通**における農産品の付加価値創出
- ▶ **バーチャル都市空間**を活用した需要の掘り起こし

生産性の
向上
販路の
拡大

社会

- ▶ **教育**を通じた農業への意識変化
- ▶ **農業に肌で触れること**による行動変容の促進
- ▶ **DX**による農業のイメージ転換

農業の後継者
不足解消
食や農への
関わり拡大

環境

- ▶ **スマート農業**による農作業の効率化と脱炭素化
- ▶ 経験知のデータ化など、**有機農業のスマート化**の促進
- ▶ **フードシェア**などによる食料資源の有効利用

スマート
農業の拡大
食品ロスの
削減

SDGsモデル事業のスキーム

経済

- フードテック・アグリテックを軸としたアクセラレーション・プログラムの実施
- フードサプライチェーンDX

- ・農業と食品関連産業のイノベーション
- ・生産性向上、需要拡大



社会

- アグリ・スタディ・プログラム
- 農業を身近に感じられる取組

- ・教育の中に農業を学ぶ機会を創出
- ・市民の「食」と「農」への関わり拡大



<三側面をつなぐ統合的取組>

作るから食べるまでフードサプライチェーン —気通貫プロジェクト

- 学ぶ** ●令和版！アグリ・スタディ・プログラム
幼稚園から高校まで、食と農を学ぶ体験の機会提供
- 作る** ●農業DXモデル事業
DXによる農業の生産性向上と脱炭素化
- 売る** ●バーチャル都市空間を活用した販路拡大
現実の都市空間と連動したバーチャル上での販売促進
- 食べきる** ●フードシェア推進による食品ロス削減
規格外品や売れ残り商品の流通を促進

- 新潟市革新的農業実証支援ワストップセンターの設置
- 民間との協業による農業データシェアリング
- 民間との連携協定による有機農業
- 事業者間連携による食品ロス削減

- ・農業の脱炭素化、食料安全保障確保

環境



三側面をつなぐ統合的取組のスキーム

作るから食べるまでフードサプライチェーン一気通貫プロジェクト

学ぶ

令和版！アグリ・スタディ・プログラム

「農業や食品関連産業で活躍する人材の育成」

「学習対象としての可能性を検討し、教育に組み込み」

作る



農業DX

売る



バーチャル都市空間

食べきる



フードシェア

統合的取組の構成事業

学ぶ

●令和版！アグリ・スタディ・プログラム

- ▶対象世代を幼稚園から高校生まで拡大
- ▶食と農に関わる多様な主体との関わり
- ▶食と農に関する幅広い取組を教材化
- ▶GIGAスクールとの連動



作る

●農業DXモデル事業

- ▶農業DXの新たな民間取組を募集
- ▶市内農地での実証実施
- ▶本市の農業環境に適した技術開発を促進
- ▶JA等と連携しながら農業現場に実装



統合的取組の構成事業

売る

●バーチャル都市空間を活用した販路拡大

- ▶バーチャル空間上に本市の都心部を再現
- ▶この都市空間上で様々なイベントを実施
- ▶現実の都市空間で行うマルシェなどと連動
- ▶新たな体験を食と農の需要拡大につなげる



食べきる

●フードシェア推進による食品ロス削減

- ▶事業系の食品ロス削減を推進
- ▶株式会社クラダシと連携
- ▶規格外農作物などをWEB上で販売
- ▶フードバンク、子ども食堂へ食材提供

